

学部の同窓会を立ち上げようと言われ、名簿作り、幹事作りの準備に入りました。文理・経済学部卒で、九州電力、福岡県庁、福岡市役所、西日本鉄道、福岡銀行などに基点を置いて、あとは「士業」で転職のない人を中心に「実行委員」を募り、代表には大御所の「大谷希幸先輩」（昭和24年文理学部入学・平成26年7月没）になってもらい、昭和62年12月「福岡地区全学同窓会」を立ち上げました。初めてだと思っていたら、6、7年前に2回ほど大谷先輩を中心に開催されていたと、後で聞きました。

基本的には「行ってみて、楽しかった」と思ってもらえる同窓会にしようと、それぞれの会合に変化

をもたせました。「実行委員」（約15～20名ほど）をテーブルごとに配置して「盛上げ役」を作ったり、卒年別、居住地域別、学部別のテーブル分けをしたり、時には座席指定にして30分ごとに席替え（シャッフル）をして交流を促進させたり、抽選会やビンゴもしました。

ここ福岡では、文理学部・経済学部・教育学部・理工学部・農学部の卒業生の集まりで、毎回約100名前後の参加者があります。

大谷先輩の後を継ぎ、今は、2年ごとに開催しております。



◆ 佐賀大学の風景 ◆

佐賀大学産学交流プラザ

地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指し、大学における産学連携を促進するため、産業界や地域の関係機関との交流の下、地域社会の発展に寄与する研究と持続的および破壊的イノベーションの創出を推進するとともに、大学の学術研究活動等

に関する情報発信を行い、地域に開かれた佐賀大学の産学交流体制に寄与することを目的として設立されました。

佐賀大学産学交流プラザは佐賀大学正面玄関の東側にあります。



北西面外観



南東面外観

令和3年度の佐賀大学と 佐賀大学同窓会との

意見交換会

令和3年10月21日(木)18時から佐賀大学理工学部6号館2階の多目的セミナー室において、佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会を開催しました。

大学側からは、兒玉浩明学長をはじめ、理事・副学長3名、理事・事務局長、監事、学部長6名、全学教育機構長・副学長の計13名の参加、同窓会側からは、川副操会長をはじめ副会長6名、理事長・副理事長5名、そして事務局長の計12名が参加しました。



意見交換会の様子

意見交換会は、市場理事長の進行で、まず、同窓会川副会長から、コロナ禍で、5月予定であったが約5ヶ月遅れになったこと、同窓会の役割は、①卒業生相互の親睦と融和を図ること ②学生支援をはじめ、母校の発展に寄与することであり、同窓会と大学は「車の両輪」となって取り組んでいきたい旨の挨拶がありました。

続いて、兒玉学長からの挨拶で、まず、同窓会の学生支援活動に対し感謝の意を表されました。次に、資料に基づき、①新型コロナウイルス感染症への対応として、対面授業と遠隔授業の両立や、就職に係る面接がオンラインで開催されていること ②大学運営に係る第4期中期計画(2022年～)に関すること ③各学部から同窓会へ協力をお願いしたいこと ④同窓会とともに、情報発信と広報活動、在学生・卒業生らへの支援、そして卒業生の意見を大学に集める機能を作りたいこと などについて説明がありました。

兒玉学長の説明に対し、同窓会側から、①学生の卒業後の動向を十分把握できずに苦慮していること ②住所変更届等をメール配信システムを使って行う体制を取りつつあるが、学生のアクセスナンバー(アカウント)を活用させてほしい旨の質問がありました。これに対し、兒玉学長からは、個人情報との関係もあり、今後学内で検討する旨の回答がありました。

大学側出席者からの業務内容を含む自己紹介があり、副学長からは、人事面で35才以下の若い研究者の採用を進めていること、授業に関し対面とオンラインの良いところを取り入れた対応に取り組んでいること、社会連携のワンストップを図るため大学の正門付近に「産学交流プラザ」を開設したことなどを報告されました。

続いて、各学部同窓会長から、活動の一端として、①有朋会(教育学部)は、2023年に創設135周年を迎えることから記念誌の刊行を計画していること ②芸術地域デザイン学部同窓会は、令和2年に発足し学生活動誌「メモア」の発行を支援していること ③楠葉同窓会(経済学部)は、学生に同窓会を理解してもらう活動の一環でクオカードを配布したこと ④佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会は、卒業生が佐賀で医師として定着するため、同窓会長をセンターとする組織を設立したこと ⑤理工学部同窓会(菱実会)は、会報「菱の実」の説明と同窓会事務作業のデジタル化を進めていること ⑥農学部同窓会は、会報「ありあけ」の説明と令和3年度も学生との交流会をオンラインで実施することなどの報告がありました。

予定されていた大学側と同窓会側の自己紹介や業務・活動内容の報告を受けての意見交換は、残念ながら時間切れで実施できませんでしたが、双方から考えを出し合ったことで、有意義な意見交換会となったと思います。

結びに、川副同窓会長がコロナ後において、活発な同窓会活動ができるよう取り組んでいくこととし、その一つとして、各学部同窓会や支部会・地区会の同窓会活動では、大学との意見交換の場を設けていきたいので、是非大学側からも参加していただきたい旨のお願いがあり、お開きとなりました。

文責 佐賀大学同窓会 会報発行部長 森田 昭(農学・S52年卒)

佐賀大学同窓会の案内

同窓生の皆様へ「母校・学び舎（まなびや）と母港」

皆様方にとりまして佐賀大学は母校です。将来の夢について友と語り合い、悩みを分かちあい青春時代を共に過ごした学び舎です。同窓生の皆様、母校である佐賀大学を思い出してください。港から出て行った船は、出航したあと戻ってくる母港があります。

皆様方の母港は佐賀大学です。

佐賀大学同窓会及び各学部同窓会では、学生たちが社会人として立派に巣立っていけるように就職支援等の活動を行っています。また同窓生とのつながりを深める様々な取り組みを行っています。



佐賀大学同窓会

佐賀大学同窓会（全学同窓会）は、6つの学部同窓会で構成されています。

佐賀大学同窓会（全学同窓会）

有朋会

教育学部、文化教育学部

芸術地域 デザイン学部同窓会

芸術地域デザイン学部

楠葉同窓会

文理学部、経済学部

佐賀医科大学・ 佐賀大学医学部同窓会

佐賀医科大学
佐賀大学医学部

理工学部同窓会（菱実会）

理工学部

農学部同窓会

農学部

同窓会活動は、佐賀大学同窓会（全学同窓会）が各学部同窓会と共同して行う事業と、それぞれの学部同窓会が主体性・独自性を出して行う事業があり、年々充実を図っています。

佐賀大学同窓会の目的と変遷

佐賀大学同窓会は、「佐賀大学の発展に寄与すると共に、同窓生の親睦と交流の促進」を基本理念としています。

各学部同窓会はそれぞれに歴史が違います。教育学部の同窓会である「有朋会」は明治時代からの長い歴史があります。

昭和24年5月に「佐賀大学」が設置され、「有朋会」に加え「文理学部同窓会」「農学部同窓会」の同窓会が設立されました。昭和54年5月に「文理学部同窓会」が「楠葉同窓会」として発足しました。その後、「楠葉同窓会」から「理工学部同窓会（菱実会）」が分離しました。

平成15年10月に佐賀大学と佐賀医科大学が統合し、5学部を有する佐賀大学が誕生しました。

これを契機に、平成16年4月に「有朋会」「楠葉同窓会」「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」「理工学部同窓会（菱実会）」「農学部同窓会」の5学部が構成員となった、佐賀大学同窓会（全学同窓会）に整備されました。

令和2年2月に芸術地域デザイン学部同窓会が発足し、現在6学部同窓会を構成員とする佐賀大学同窓会（全学同窓会）として活動しています。

佐賀大学同窓会（全学同窓会）の主な活動

1 会員向け活動

- 同窓会報「楠の葉」の発行（年2回）
 - ・1回は同窓会員に配付し、もう1回はホームページでの閲覧
- 支部会（県外）及び地区会（県内）同窓会活動の組織化と支援活動
- 佐賀大学卒業生の名簿管理、就職情報の提供
- 「佐賀県青春寮歌祭」への参加（全国の大学のOB・OGが集う寮歌祭）

2 学生への支援

- 佐賀大学同窓会長賞の授与（卒業生対象）

- ・社会活動、課外活動、学術研究活動において地域貢献が顕著で、各学部から推薦があった卒業生。

○「キャリアデザイン講座」への講師（OB・OG）の派遣
 ・同窓会員である講師が、今の職に就くまでに大学時代からどんなことを考え、どんな行動をしてきたか等についての講話。

○佐賀大学 大学祭への支援

3 佐賀大学との連携

○佐賀大学（学長等）と佐賀大学同窓会（同窓会役員）との意見交換会

○佐賀大学校友会への支援

○佐賀大学「ホームカミングデー」開催への協力、支援

○佐賀大学へ同窓生の情報収集

佐賀大学同窓会支部会・地区会について

佐賀大学同窓会ホームページを開きますと、

「たて糸と よこ糸で 織りなす 佐大の人間模様」

の言葉が目に入ります。

「たて糸」は、先輩と後輩のつながり 「よこ糸」は、同期生の集まりです。

- ・「支部会」「地区会」は佐賀大学を卒業した方々の集まりである同窓会組織です。
- ・佐賀県外に15の支部会、佐賀県内に11の地区会と3つの職域支部会があります。卒業しても佐賀大学とのつながりはなくなりません。
- ・卒業後、同窓会を活用し参集することによって、幅広い職種や違った年齢層の方と出会うチャンスが得られ、人生が広がっていくと思います。

是非近くの支部会・地区会に参加してください。

支部会（佐賀県外）

- 東京 ●北九州 ●佐世保 ●宮崎
- 東海 ●福岡 ●諫早 ●鹿児島
- 関西 ●筑後 ●熊本 ●沖縄
- 山口 ●長崎 ●大分

職域支部会

- 佐賀大学教職員 ●佐賀市役所
- 佐大会（県立学校管理職の会）



地区会（佐賀県内）

- 鳥栖・基山 ●佐賀市 ●鹿島・藤津・嬉野
- 三養基 ●小城・多久 ●武雄 ●伊万里
- 神埼 ●唐津 ●杵島 ●有田



本庄キャンパス



鍋島キャンパス



有田キャンパス

同窓会NOW

有朋会

学び続けることが社会の見方を変えてゆく

芸術地域デザイン学部 教務補佐員 古賀 奏恵 (文化教育・H31年卒、地デ研・R2年修了)

私は、平成31年に文化教育学部美術工芸課程西洋画専攻を卒業、令和2年に地域デザイン研究科芸術デザインコースを修了し、現在は本学の芸術地域デザイン学部の教務補佐員として働いています。

教務補佐の業務内容は、基本的に学部1年生の授業補助です。授業の補助とは、授業に関する学生からの質問に答えたり、出席や課題の管理をしたりといったものです。教えられる側から教える側になり、自身の至らなさを痛感する一方で、学生のエネルギーで前向きなパワーをもらっています。卒業後も制作活動を行なっているのですが、教務補佐での経験が自らの制作意欲につながっていると感じます。今年の9月には教務補佐員全員で展示会を計画し、私は油彩画を数点制作し、立体作品にも挑戦してみました。

また、社会人になってから学生の時に抱いていた芸術に対する向き合い方がガラリと変わりました。学生時代は何かにつけて生き急いでいましたが、今

は比較的ゆっくりとした生活を送りながら、作品制作に対して真摯に向き合うことができています。

例えば、現代において、新型コロナウイルスの感染拡大、インターネット社会における記号化の加速やフェミニズムなど、様々な問題がリアルに生きる私たちを取り巻いています。このような状況下で抱いた感情や思考をどのような方法で芸術作品として表現できるのかを模索し続けなければなりません。それは、大学で学んだことの延長線上にあるものでもあり、学ぶことは一生尽きることがなく、私自身の生活を潤してくれる大事なことだと感じさせられます。

このように社会を多角的に考えるには、佐賀大学美術工芸課程及び地域デザイン研究科の環境は恵まれていたと思っています。学びつづける姿勢を忘れず、これからも邁進していきたいです。



同窓会NOW

芸術地域デザイン学部同窓会

オランダ留学とデザイン

株式会社デイリー・インフォメーション関西 江越 未悠 (芸地デ・R3年卒)

芸術地域デザイン学部が設立され、2017年から、デザインアカデミーアイントホーヘン(以下DAE)とハレ芸術大学と交換留学協定が結ばれました。私は、学部1年生の時に、ドイツ・オランダ短期海外研修に参加しダッチデザインのコンセプトを軸としたデザイン制作に興味を持ち、3年生の2月からオランダのDAEで交換留学を行いました。時期は世間一般の就活に丸被りの半年間での渡航でしたが、その時期にしか学べない内容だったので、その時期に決めました。課題は7つあり、中でも、香りの未来と、コロナ後の世界に何を提案するか、の2つのテーマでは、制作や考え方の幅が広がったように感じます。香りの未来では、茶葉を練り混ぜた線香で時間経過を楽しむというコンセプトを表現

しました。コロナ後の世界には、新しい挨拶をつくり、ブックレットと動画を作りました。コロナの影響で途中からオンラインでの留学でしたが、やり切ることができました。その後の卒業制作と就職活動にも学びや感じたことは繋がっており、人が作品やモノゴトに触れあったときにどう感じるか、その感じ方をどうデザインするか、がテーマとなっています。卒業後に既卒生として就職活動をし、6月から広告代理店の営業職として働いています。今後も、人とモノゴトの出会いをどうデザインするか、それをどの地域で貢献したいのか、試行錯誤を楽しむ人生にしたいです。



同窓会NOW

楠葉同窓会

博物館・美術館NOW

皆さんは佐賀市城内にある佐賀県立博物館・美術館へ行かれたことはありますか？私は出身が県外だったということもあり、小中学生時代に社会科見学で訪れたこともなく、漠然と絵画や民俗資料が展示してあって、それを見に行くところという認識しか持っていませんでした。それが10月の人事異動で本館に赴任！確かに常設展や企画展は年間を通じて開催されていますが、それだけではありませんでした。

美術や歴史等をテーマに本館の学芸員が熱く語る「博物館・美術館セミナー」や、小学生を対象にいろいろな文化・芸術体験をしてもらう「夏休み子どもミュージアム体験講座」。そのほか館内だけではなく、美術品や昔の道具を小学校や中学校に持ち込んで、その場で本物に触れてもらう「ミュージアムキャラバン隊」、公民館などに学芸員が出向いて話をする「出張講座」など。前者はコロナ禍にも関わらず昨年度は50近くの小中学校からの依頼があったほどです。

昨年度はコロナ禍の影響を受けて、来館者数は激減しましたが、緊急事態宣言や蔓延防止措置等の解除に伴い、徐々に来館されるお客様は増えつつあります。1月1日からは佐賀出身の画家・中島潔氏の画業50周年を記念し

佐賀県立博物館・美術館 坂田 智宏（経済・S62年卒）

た新作展「女性が輝く未来一瞬間の“煌めき”」や、2月1日からは肥前刀の名工として名高い初代忠吉の刀を一挙公開するコレクション展「忠吉から忠弘へ―集結！初代忠吉―」が開催されます。

また県内には本館の他にも、肥前地区の陶磁器をはじめ、九州各地の陶磁器や現代陶磁器作家の作品を収集、展示している九州陶磁文化館（有田町）、日本列島と朝鮮半島との交流の歴史を調査研究し展示紹介している名護屋城博物館（唐津市鎮西町）、日本の近代化を先導した“幕末維新期の佐賀”を分かりやすく伝える佐賀城本丸歴史館（佐賀市）、プラネタリウムや天文台があり、参加体験型の展示物を通して科学を楽しく学ぶことができる宇宙科学館ゆめぎんが（武雄市）といった施設があります。

各館とも多くの皆さんに喜んでいただけるような様々な企画を立てていますので、ぜひ一度、足をお運びください。



同窓会NOW

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

卒業してから成長したこと

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 鶴田 成二（医学・H30年卒）



【出汁】という言葉が私は好きである。漢字からは読み方は想像できないが【だし】と呼ぶ。【だし】の語源は意外に古く、1643年に刊行された『料理物語』で初めて『だしはかつお…』とあり、ひらがなで【だし】という言葉が書かれている。江戸時代初期の参勤交代が始まった頃くらいから【だし】という言葉は使われていた事になる。いやはや家康公含め大名たちも汁物を召し上がった時に『あな出汁いと旨しや』などと使われていたのかと想像するとなんだか【だし】にも風情を感じてしまう。そしてもうひとつ。当初、【だし】といえばかつおだったようである。さすが海に囲まれた日本列島、椎茸より魚である。これからかつおだしのお吸い物を飲む時は徳川家を思い出そう。さて、【だし】という言葉に漢字が当てられたのはもっと後で1700年代からであった。1714年『当流節用料理大全』では【だしじる】を【液汁】と表記されていたり、1777年『倭訓栞』では【だし】を【煮出】と表記されている。そんな昔から料理本があったことにも驚きであるが、【だし】という漢字がいろいろあって決まらなかったことにも驚きだ。そんな紆余曲折を得て日本が辿り着いた【だし】の最終形態が【出汁】。素直にもっと他にもあっただろうと思ってしまう。だって【だしじる】

は【出汁】と表記せざるを得ないし、何より【煮出汁】の方がしっくりくるのではないか。だがそこはわびさびの精神を備えた日本人、その不完全さこそ愛くるしいではないか。茶人・山上宗二も『上をそそうに、下を律儀に』と述べているように、そそうなものほど美しいのが日本である。言い換えると【出汁】はわびさびの象徴、つまりは日本の心が詰まっている。皆様も愛でただけると幸いである。

さて、私は築地に住んでいるが、住んでわかったことがある。築地はそんな『出汁』が集まる日本でも有数の場所であった。築地は豊洲に移った今でも賑わっており、だし専門店すらあるのだ。こんなところに住めて本当に幸せであり、住めば都である。先日、家の近くにかつて佐賀出身で幕内まで行った佐賀昇のちゃんこ鍋やさんがあることを見つけた。こんなところで佐賀を感じられた。佐賀出身の先輩も同じ土地で活躍されていると想うと元気が出てくる。同郷とはいつになってもいいものだなって勝手に遠い存在の方に親近感を寄せてしまった。

大学を卒業してから早4年目になる。あれから成長したのは『出汁』の知識だけだ。

同窓会NOW

理工学部同窓会（菱実会）

回 想

ニチレキ株式会社

田久保 松美（理工・S53年卒）



還暦を過ぎて早6年目、佐賀県庁を退職し、今は民間の舗装関係の会社に勤めています。

道路はアスファルト、あるいはコンクリートの舗装がされているのが当たり前ですが、私の小学生の頃は、田舎に住んでいたこともあり県道とは言え砂利を敷きならした道も多く散見され、車が通るたびに埃がしたものでした。大学生の頃には流石に砂利道は解消されたものの、正規の幅員で整備された道路はまだまで、未改良路線が多くありました。ちなみに大学の南側を通り佐賀市内の環状道路の一部を担う国道208号（南部バイパス）は、その当時、急ピッチで整備が進む一方、沿線には建物がまばらで、周辺はのどかな田園風景のものでした。

大学4年生になると卒論ゼミの選択時期です。その頃はまだ第1次オイルショックの影響で就職難の時代でした。信憑性は定かではありませんでしたが、石川先生（故人）の鉄筋コンクリートゼミに入れば就職に有利と聞き、そのゼミに何とか入ることができました。先生の指示のもと、ゼミの仲間とコンクリートを練りながら様々な実験を重ねて行く過程で、先生が学生の意見を聞き各人の卒論テーマは決まりです。その実験の中で、コンクリートに鋼繊維を混入して強度を高めるものがあり、実用化に向けて各機関で研究開発が進められていたものの、本当に実用化されるのかと思っていましたが、現在は、鋼繊維補強コンクリート（SFRC）としてその地位を確保し、橋梁、トンネル等に使用さ

れています。今も昔も大学は「知の集積の場」です。産学官コラボが盛んに展開される中、卒業生の皆さん、佐賀大学を大いに活用されることを期待いたします。

私が住んでいるところは、県の真ん中あたりの唐津市巖木町です。四方を山に囲まれ佐賀県のチベットと呼称する人もいるようですが、ここから見る秀峰天山の容姿は格別です。佐賀市方面からはなだらかな台形状ですが、こちらからは円錐状に見え、まさに小富士です。九合目あたりに駐車場があり、そこから約30分で登れます。山頂から佐賀県を俯瞰されてはどうですか。

また天山から西の方にある作礼山の中腹には、紅葉の見所で話題の「環境芸術の森」があります。1万本を超える色とりどりのモミジやカエデが歓迎してくれます。秋季に、こちらで紅葉狩りを楽しまれてはいかがでしょうか。



同窓会NOW

農学部同窓会

海に関わり続ける

株式会社日本海洋生物研究所

古賀 あかね（農学・H18年卒）



平成18年に農学研究科生物生産学専攻を卒業し、その後鹿児島大学大学院連合農学研究科にて博士号を取得しました。学生時代は浅海干潟環境学研究室に所属し、日々干潟の泥にまみれながら現地調査をメインとした研究を行っていました。

連合農学研究科を卒業後は、建設コンサルタントである株式会社日本海洋生物研究所に入社しました。入社後は、東京にある本社にて現地調査や生物・化学分析に従事し、その後中部支店に異動し、現地調査や漁業生物を用いた生物実験の他、海域の社会資本整備等に伴う漁業影響評価に携わっています。漁業影響評価は環境アセスメントとはやや異なり、調査や解析における明確な指針がなく、業務ごとに毎回試行錯誤を繰り返

返す日々です。

私生活においては、息子が4歳となり、子育てがやや楽になったような、自己主張する分大変になったような…こちらも試行錯誤の日々です。

生活スタイルが変化したことで時間的な制限を受けることが多く、作業の効率化はマストです。私生活にも効率化を求めてしまい、息子にペースを乱すなど叱られることもしばしばです。

今後も未来を担う子供たちにより良い環境を残し、海の環境改善や漁業の発展に少しでも貢献できればと思います。

令和3年度「キャリアデザイン講座」

佐賀大学の教養基本科目「キャリアデザイン講座」は、同窓会員である講師が現在の仕事のことや、今の職に就くまでに大学時代からどんなことを考え、どんな行動をしてきたのかなどについて受講学生に講話を行います（90分の講話）。教員、民間企業、公務員、芸術関係など異なる職種におけるキャリア形成のモデルが示されます。

令和2年度は、コロナ禍の影響で全ての講義がリモートでの講義となりました。令和3年度は、受講生はAとB2つの教室に分かれ、講師は教室Aで対面の講義をして、その様子を教室BにZOOMを使って配信されました。また、職場からZOOMを使って、教室AとBに配信して講義をする講師もいました。どの方法でされるかは、一覧表に「対面講義」「オンライン（職場から）」と記載しています。

1～5までは実施されました。6以降は今後実施予定です。8は、学生に同窓会について知ってもらうために全学同窓会及び各学部同窓会の紹介をパワーポイントの音声ファイルで行います。

1、「教員としてのキャリアデザイン」 令和3年10月20日(水)

講師：岸川^{きしかわ} 依織^{いおり}氏（文化教育学部 平成19年卒）

：佐賀市立循誘小学校 勤務

：「対面講義」

2、「芸術を活かしたキャリアデザイン」 令和3年10月27日(水)

講師：山林^{やまばやし} 満帆^{まほ}氏（芸術地域デザイン学部 令和2年卒）

：(株)電通九州 福岡本社ビジネスプロデュース局 勤務

：「オンライン（職場から）」

3、「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和3年12月1日(水)

講師：宮崎^{みやざき} 慎也^{しんや}氏（経済学部 平成21年卒）

：佐賀銀行 営業支援部 勤務

：「対面講義」

4、「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和3年12月15日(水)

講師：山下^{やました} 雄三^{ゆうぞう}氏（農学部 平成14年卒）

：佐賀県農業協同組合 生産資材部 勤務

：「対面講義」

5、「公務員としてのキャリアデザイン」 令和3年12月22日(水)

講師：山口^{やまぐち} 靖乃^{やすの}氏（経済学部 平成30年卒）

：佐賀県庁 総務部情報課 勤務

：「オンライン（職場から）」

6、「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和4年1月12日(水)

講師：三坂^{みさか} 隆太^{りゅうた}氏（理工学部 平成29年卒）

：木村情報技術株式会社 システム開発本部 勤務

：「オンライン（職場から）」

7、「公務員としてのキャリアデザイン」 令和4年1月19日(水)

講師：浦田^{うらた} 貴子^{たかこ}氏（農学部 平成12年卒）

：佐賀県唐津農林事務所 東松浦農業改良普及センター 勤務

：「対面講義」

8、「佐賀大学同窓会と6つの学部同窓会の紹介」 令和4年1月26日(水)

佐賀大学同窓会「学生支援部会」が、全学同窓会及び6学部同窓会の活動内容等をパワーポイントの音声入力ファイルで作成し、受講学生に同窓会活動等について知ってもらいます。



対面講義



オンライン（職場から）

各学部同窓会トピックス

● 有朋会 ●

「有朋会」では、令和2年11月15日(日)に、佐賀市城内1丁目にある前身の佐賀県師範学校の跡地で記念の石碑「有朋の碑」の改修落成式を執り行いました。佐賀県師範学校は、1884年の創設。「有朋の碑」は1967年、同窓会発足80周年記念事業として設営されたものです。その後、半世紀の時を経た長年の風雪により、損傷が目立つようになっていました。この度の改修では、多くの皆様のご尽力、ご協力により、再び当初の輝きを取り戻すことができました。厚くお礼申し上げます。



● 楠葉同窓会 ●

「学生支援策としてクオカードを贈呈」

新型コロナウイルスは、学生にとっても大学への入構制限やオンラインでの授業、また学生アルバイトの機会喪失に伴う経済的苦境など、大きな影響を及ぼしました。

楠葉同窓会では、この状況下において学生への支援策を慎重に検討し、経済学部学生全員(1,130名)へクオカード(5000円)を贈呈させていただきました。



令和2年10月16日 経済学部長室にて行われた贈呈式

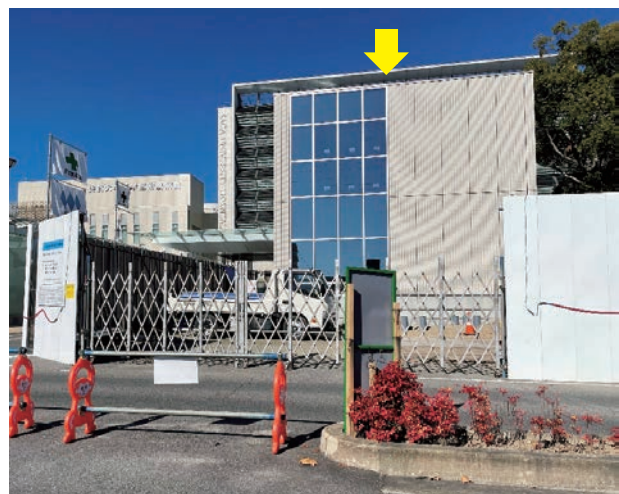
● 芸術地域デザイン学部同窓会 ●

学生の有志で制作された学部紹介誌「MEMOIRE メモア」。芸術地域デザイン学部同窓会では、学生研究支援事業の一環で、発行と内容の編集を支援した。芸術地域デザイン学部在籍する学生達のさまざまな活動が紹介される。



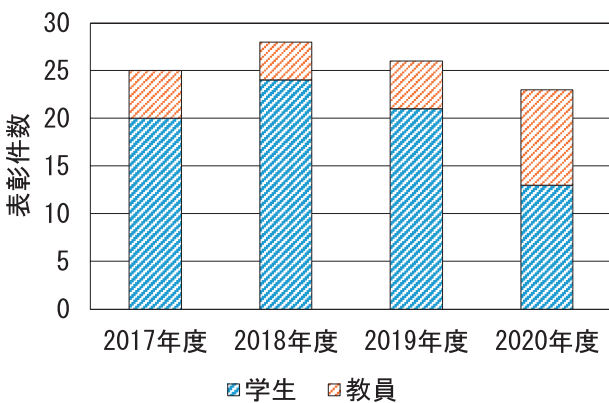
● 佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会 ●

医学部附属病院の救急外来の前に、医病多様型トリアージ棟(黄矢印)が急ピッチで建設されています(令和3年11月末)。新型コロナウイルス感染症の第6波が来ても速やかに対応することができます。



● 理工学部同窓会 (菱実会) ●

菱実会では、事務作業等のデジタル化を推進しながら、大学と同窓生を繋ぐ有効な同窓会ネットワークの強化を図っております。また、これまで理工学部関係の教育・研究をほとんど紹介してきませんでしたので、会報「菱の実」には、理工学部教員一覧、時代のニーズと共に発展する理工学部、表彰実績、理工学部（理工学研究科・先進健康科学研究科等）の特徴ある研究紹介などを掲載して、理工学部の教育・研究活動等を同窓生に限らず、在学生の保護者らにも周知するように努めております。



理工学部の学生及び教員の表彰実績

● 農学部同窓会 ●

農学部同窓会では、農学部と連携し同窓生と現役学生との交流会を開催しています。これは、学生のキャリア教育の一環として、同窓生の目線から職場の様子や現役学生へのエールを行うものです。



佐賀大学ホームカミングデーの開催

佐賀大学校友会主催「第10回佐賀大学ホームカミングデー」が、令和3年11月6日(土)に開催されました。新型コロナの影響で、参加者の健康と安全確保を最優先するためにオンライン（ZOOM）による開催となりました。事前に、URLまたはQRコードを利用して参加申し込みをしてもらいました。

セレモニーでは、佐賀大学児玉浩明学長のあいさつ及び大学の現状報告があり、続いて同窓会川副操会長から、佐賀大学同窓会は佐賀大学の発展のために尽力していきたい等の話がありました。

次に、医学部副学部長の青木洋介先生から「新型コロナウイルス感染症の現状とこれから」の演題でビデオ講演がありました。参加者からの質疑については出張先からオンラインで回答がありました。学生支援事業報告会では、「海外派遣奨励金」で留学した2名の学生から報告があり、学んだことを今後活かしていきたいと抱負が述べられました。



ビデオ会議システムZOOMを利用した配信の様子
(佐賀大学産学交流プラザ)

佐賀大学同窓会・佐賀大学の動き（令和3.7～令和4.3）

- | | |
|---|---|
| <p>7.1 佐賀大学同窓会会報誌「楠の葉」（第35号）発行
（会報誌は会員へ郵送）</p> <p>7.23 東京オリンピック開会式～8.8東京オリンピック閉会式</p> <p>8.24 東京パラリンピック開会式～9.5東京パラリンピック閉会式</p> <p>9.30 佐賀大学同窓会「三者打合せ会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>10.4 佐賀大学同窓会「庶務部会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>10.14 佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>10.20～令和4年1.26 の水曜日「キャリアデザイン講座」の開催。
佐賀大学同窓会の卒業生7名を講師として招聘、学生に対して講義を行う。</p> <p>10.21 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
／佐賀大学理工学部6号館（DC棟）2階</p> <p>10.27 佐賀大学同窓会「会報発行編集会議」
／菱の実会館（多目的室）</p> | <p>11.6 佐賀大学ホームカミングデー／オンラインでの開催
佐賀大学産学交流プラザから配信</p> <p>11.24 佐賀大学同窓会「支部強化部会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>11.25 佐賀大学同窓会「三者打合せ会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>12.9 佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>（令和4年）</p> <p>1.1 佐賀大学同窓会会報誌「楠の葉」（第36号）発行
（ホームページでの閲覧）</p> <p>2.10 佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）（予定）</p> <p>2.25～26 佐賀大学（前期日程）入学試験</p> <p>3.12～13 佐賀大学（後期日程）入学試験</p> <p>3.23 佐賀大学学位記授与式／佐賀市文化会館（予定）</p> <p>※佐賀大学同窓会支部会（県外）及び地区会（県内）は、
新型コロナ禍の影響で中止された。</p> |
|---|---|

佐賀大学同窓会報誌「楠の葉」の発行について

会報誌は年に2回発行しています。1回（7月1日発行）は同窓会会員に配付しますが、もう1回（1月1日発行）はホームページでの閲覧となります。会報誌は佐賀大学同窓会の様々な活動が掲載されていますので、是非ご覧ください。



ホームページの閲覧を

佐賀大学同窓会ホームページを開きますと、トップページには次の言葉が書いてあります。

「たて糸と よこ糸で 織りなす佐大の人間模様」

たて糸は、『先輩後輩の繋がり』 よこ糸は『同期生の集まり』

中を開いていただきますと「佐賀大学同窓会」と「有朋会」「芸術地域デザイン学部同窓会」「楠葉同窓会」「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」「理工学部同窓会（菱実会）」「農学部同窓会」の6学部同窓会の様々な活動の様子が記されています。是非ご覧になってください。

（ホームページ）<http://sadai.jp/alumni/>

ご意見メール等募集

同窓会や会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

名前・住所変更等 ご連絡のお願い

住所変更、お問い合わせ等がありましたら、佐賀大学同窓会ホームページ「住所変更・お問い合わせはこちら」からお知らせください。

Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700 E-mail : dousoukai@sadai.jp

